

第 62 回（2023 年度）研究発表会 若手優秀発表賞 受賞者

第 62 回研究発表会および現地見学会実行委員会

事業計画部

岐阜大会において研究発表を行った若手発表者(申込時の年齢が満 35 歳以下)の中から、以下の方々を優秀発表者として表彰することといたしました。受賞者には、実行委員会より賞状と副賞を贈呈いたします。また受賞者による該当テーマに関する**学会誌論文投稿優遇措置(※)**を設けておりますので、研究成果の投稿をぜひお願いいたします。

■若手優秀発表賞 受賞者

【口頭発表部門（発表番号順）】

- ・ 1-21 阿部 淳一（応用地質株式会社）
「甚之助谷地すべりでの CIM モデルを活用した排水トンネルの変状メカニズム解明」
- ・ 2-22 川上 礼央奈（岩手大学大学院）
「年輪地形学的手法による地すべり活動性の把握に向けた検討：秋田県上槇沢地すべり地を例として」
- ・ 3-1 室伏 文佳（国土防災技術株式会社）
「群馬県万座地すべり地の自然放射線量分布と斜面変動場との関係」
- ・ 3-10 藤井 朗汰（山口大学大学院）
「動的載荷リングせん断試験における粘土の繰返しせん断特性（第 2 報）」

【ポスター発表部門（発表番号順）】

- ・ P-9 家田 満留（国土防災技術株式会社）
「群馬県万座地区地すべり奥万座川ブロックのすべり面性状と強度特性」
- ・ P-27 工藤 優葵（筑波大学）
「高解像度 DEM を用いた災害前斜面の地形が斜面崩壊の規模に及ぼす影響の検討」
- ・ P-29 佐志 啓未（日本工営株式会社）
「斜面型ライシメータによる融雪水の計測—国道 41 号富山市岩稲地区の事例—」

■審査方法

【口頭発表部門】

候補者 19 名に対して、事前審査と当日審査を行った。事前審査は、候補者 1 名あたり 3 名の審査員により、講演要旨に対して 3 つの項目（研究内容、研究レベル、原稿の完成度）について 5 段階評価で採点した。当日審査は、候補者 1 名あたり 2 名の審査員により、発表のわかりやすさ、質問に対する回答の的確さ、研究に関する理解度・貢献度などについて評価を行った。事前・当日審査の総評をもとに、実行委員・事業計画部が表彰者を決定した。結果的に、合計得点上位の 4 名を表彰者とした。

【ポスター発表部門】

候補者 11 名に対して、事前審査と当日審査を行った。事前審査は、候補者 1 名あたり 3 名の審査員により、講演要旨に対して 3 つの項目（研究内容、研究レベル、原稿の完成度）について 5 段階評価で採点した。当日審査は、候補者 1 名あたり 2 名の審査員により、研究内容、ポスターの出来栄え、発表態度などについて評価を行った。事前・当日審査の総評をもとに、実行委員・事業計画部が表彰者を決定した。結果的に、合計得点上位の 3 名を表彰者とした。

なお、本表彰は、ポスター部門、口頭部門それぞれ複数回の表彰を行わないこととしている。

■審査員（順不同・敬称略）

・第 62 回研究発表会および現地見学会実行委員会・口頭発表副座長

沢田 和秀、堤 大三、阿部 大志、高島 誠、山田 泰弘、小野 和行、田中 靖政、曾野 明洋、坂 啓惟、矢島 賢治、藤井 雄次、剣持 淳二、宇野 智博、小野塚 寧々、廣瀬 一聖、宮澤 洋介、嶋田 隆信、田邊 智司、桑野 稔弘

・事業計画部・口頭発表座長

佐藤 剛、土志田 正二、茂木 俊、井上 宏、稲葉 一成、岩佐 卓実、大村 泰、奥山 悠木、楠本 岳志、久米田 大樹、小林 豊、相楽 渉、佐藤 亜貴夫、丹野 正浩、村上 亘、宇次原 雅之、榎田 充哉、土佐 信一、佐藤 浩、山田 隆二、北爪 貴史、山崎 新太郎、神山 嬢子、山口 裕二、宮城 昭博、佐藤 壽則、鄒 青穎、上森 弘樹

※学会誌論文投稿優遇措置

受賞者が筆頭筆者として、受賞した発表に関連する内容の原稿（原稿区分は問わない）を日本地すべり学会誌に投稿する場合、その費用が免除される（ただし、カラーページ費用、超過ページ費用、別刷費用は免除対象に含まない）。優遇措置を受けられる期間は受賞から 3 年間である。受賞者にはこれを機に研究成果の投稿をお願いしたい。